

危機管理

マニュアル

～突発的な事故の対応～



北海道追分高等学校

目 次

[1]	はじめに	1
[2]	危機管理の原則	1
[3]	学校で起きる危機的な課題例	2
[4]	危機にどう対処するか（4つのステップ）	2
[5]	危機にあたっての留意点	2
[6]	平常時の災害予防対策	2
	1. 学校の施設、設備の点検	2
	2. 通学路、生徒指導上の安全対策	4
	3. 生徒に対する防災教育	4
[7]	災害発生時の対応	5
	1. 校内で火災が発生した場合の対応	5
	2. 地震が発生した場合の対応	6
	3. ミサイルが発射された場合の対応	8
[8]	健康安全上の対応	9
	1. 校内で生徒がけがをした場合の対応	9
	2. 校内で暴力事件が発生した場合の対応	10
	3. 食中毒への対応	11
	4. 学校伝染病・インフルエンザ等感染症の対応	12
[9]	教育上のトラブルの対応	13
	1. 生徒指導における対応	13
	2. いじめ問題の対応	14
	3. 問題行動に対する基本的な対応	15
	4. いじめ・行事等自殺予告電話の対応	16
	5. 凶器持ち外部侵入者への対応	17
	6. 校外における不審者・異常者への対応	18
[10]	参考資料	
	1. 災害発生時の対応	①
	2. 緊急時の救急体制	②
	3. 災害時（地震・火災・台風・噴火等）の指揮系列及び内容	⑤

〔 1 〕はじめに

近年、自然災害や様々な事故、いじめや不登校などにより学校の危機管理の必要性が問われている。これは、「学校教育において生じる事件・事故」のすべてにおいて、危機的状況に陥った場合を想定して考えなければならず、そのための「予防的措置」及び「適切な事後処理」を含むものである。

そこで、危機管理に対処するための方策として、平常時の備えや危機発生時の諸活動等についてマニュアルを作成し、学校の教職員全体で認知しておく必要がある。

〔 2 〕危機管理の原則

危機に対する認識の第一歩は、「異常」や「非常」を感知したり察知することにある。しかし、何を異常・非常と捉えるのか、また、どこからを異常・非常と捉えるのかは、個々により異なる場合がある。

生徒の言動の変化を異常・非常と捉えなかったために、問題が大きくなったり、複雑になったりした例も見られる。

異常と捉えた場合、的確かつ迅速に対応しうる判断力と行動力が重要である。この場合のポイントは、『事態を一人で受け止めないで、直ちに関係者に連絡・相談すること』である。

更に不測の事態が発生した場合には、必ずしもマニュアル通りではなく、状況に即して臨機応変に対処することも大切である。この場合には、独断専行にならないように、連絡・相談を速やかに行うようにしなければならない。つまり、危機管理の原則は次のとおりである。

状 況 把 握

適 切 な 判 断

迅 速 な 対 応

臨 機 応 変 な 対 処

報 告 ・ 連 絡 ・ 相 談

[3] 学校で起きる危機的な課題例

1. 教育活動に伴う事故（一般の学校事故）
2. 懲罰・体罰
3. 生徒指導に関する事故（いじめ・不登校・校内暴力など）
4. 火災・地震や施設設備の破損
5. 伝染病の流行（食中毒・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症など）
6. 公務員倫理など服務規律に関する苦情など
7. 不審者の校内侵入
8. その他（予期せぬことへの対応・ミサイル・爆弾の予告・その他）

[4] 危機にどう対処するか（4つのステップ）

1. 危機の予知（情報収集）
危機的な状況が起きる可能性を予知する。（施設設備の日常的点検をする。）
2. 危機の回避及び防止（最悪への準備）
予知したらそれを回避する措置を講じる。
3. 危機への対処
不幸にして発生した場合の組織として対処の仕方を作成しておく。
4. 危機の再発防止

[5] 危機にあたっての留意点

1. 的確な情報システムを作っておく。（情報の一元化＝教頭。不在時＝教務部長。）
2. 事前に危機を防止し・回避することができる準備を日頃から用意しておく。
3. 危機が発生した場合に人命を第一に考え、それに対してどうやって被害を最小限にしていくかを考え、対策を取り決めておく。
4. 再び同じような危機がおこらないように再発防止の手段を講じておく。
5. 必ず経緯（時間的経過を含めて）が分かる記録を取る。
6. 報告（情報）の原則（5W1H）
「何時 when」
「何処で where」
「何が what」
「何故 why」
「誰が who」
「如何にして how」

[6] 平常時の災害予防対策

1. 学校の施設、設備の点検
(1) 普通教室の施設、設備と環境保全

- a. 机、椅子、教卓等の配置と固定状態の確認
- b. 壁、ドア、窓ガラス、床面の破損の点検
- c. 通風、換気の点検
- d. 照明器具、採光の点検と落下防止の確認
- e. 非常口の明示と点検

(2) 体育施設の安全管理

- a. 体育館床面の管理、点検
- b. 各種体育用器具の点検と安全な活用
- c. 付属施設、固定施設設備等の定期点検
- d. 用具室、放送室、トイレ等の管理と点検
- e. グラウンドの管理と点検、整備
- f. 非常口の明示と点検

(3) 特別教室の管理

① 化学・生物室の管理

- a. 戸棚、実験台、テレビ等の配置と転倒予防の確認
- b. 物品の運搬、格納の状態の点検
- c. 器具類、薬品類の整理・保管と紛失防止対策
- d. 熱源、電源の管理と点検
- e. 薬品の扱い方、後始末等の一般的注意の掲示
- f. 消火器、防火バケツの準備と点検

② 被服室の管理

- a. 戸棚、実習台の配置と転倒防止の確認
- b. ミシン、アイロン等の保管、管理と点検
- c. カッター、はさみ、針等の管理と紛失防止対策
- d. 実習中の安全の確認
- e. 電源の管理と点検

③ 調理室の管理

- a. 戸棚や調理台の配置と転倒防止や危険防止
- b. ガスコンロの使用前後の点検
- c. 調理用器具の確認、点検と実習中の安全の確認
- d. 引火性の油類の安全な収納と管理、点検
- e. 調理用素材の保存や管理

④ 音楽室の管理

- a. 楽器収納棚の整理整頓と楽器落下防止
- b. ピアノの足の固定確認
- c. 音響装置の転倒防止と定期点検

⑤ 保健室の管理

- a. 薬品棚、ロッカー、計測機器等の転倒防止
- b. 釣り棚の落下防止と点検

- c. ベッドの位置の安全確認
- ⑥パソコン室・検索室の管理
 - a. PCの落下防止と点検
 - b. 電気系統の点検とたこ足配線の防止
 - c. 書類棚の整理整頓と落下防止
- ⑦職員室の管理
 - a. 机上の整理整頓と書類・書籍等の転倒防止
 - b. 照明の落下防止と点検
 - c. 電気系統の点検とたこ足配線の防止
 - d. 緊急放送設備の定期点検
 - e. 公簿の紛失防止対策
 - f. 公簿の整理整頓と緊急時の持ち出し

2. 通学路、生徒指導上の安全対策

(1) 通学路

本校の通学路は道幅が狭く、小路を利用する場合は見通しが悪い。高齢の運転者も多く生徒の通学には十分な注意を要する。

(2) 指導の重点

- a. 右側通行の励行
- b. 斜め横断の禁止
- c. 横に広がって歩かない

(3) 指導方法

- a. 交通安全意識の啓発（集会、学級指導等）
- b. 路上歩行指導の実施（年度初めに重点的に実施）

(4) JR通学生の指導方法

- a. 列車通学生の会を結成（年度初め）
- b. 列車通学生の会より情報収集
- c. 添乗指導の実施（JRとの合同添乗指導）
- d. 駅巡視の定期的実施

3. 生徒に対する防災教育の実施

学校における危機は、自然災害をはじめ、一般の教育活動におけるトラブル、生徒指導上の諸問題、衛生管理、けが、教職員の事故等数多く上げられる。

従って、日頃から事故を起こさないための指導体制のあり方やあらかじめ起こり得る災害等を想定した訓練、万が一危機に陥った場合の対処など教職員間で共通理解を図っておかなければならない。

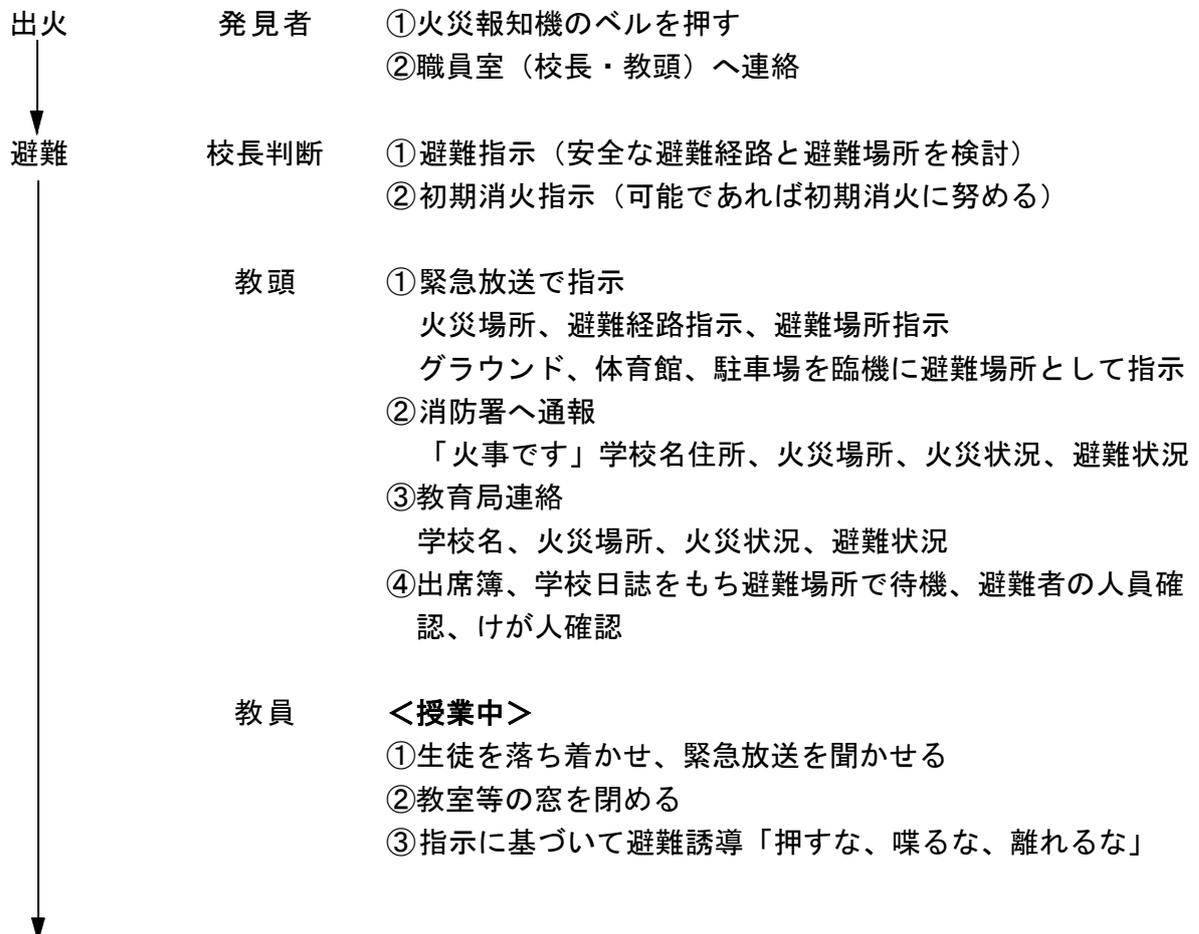
(1) 火災・地震災害に関わる防災訓練

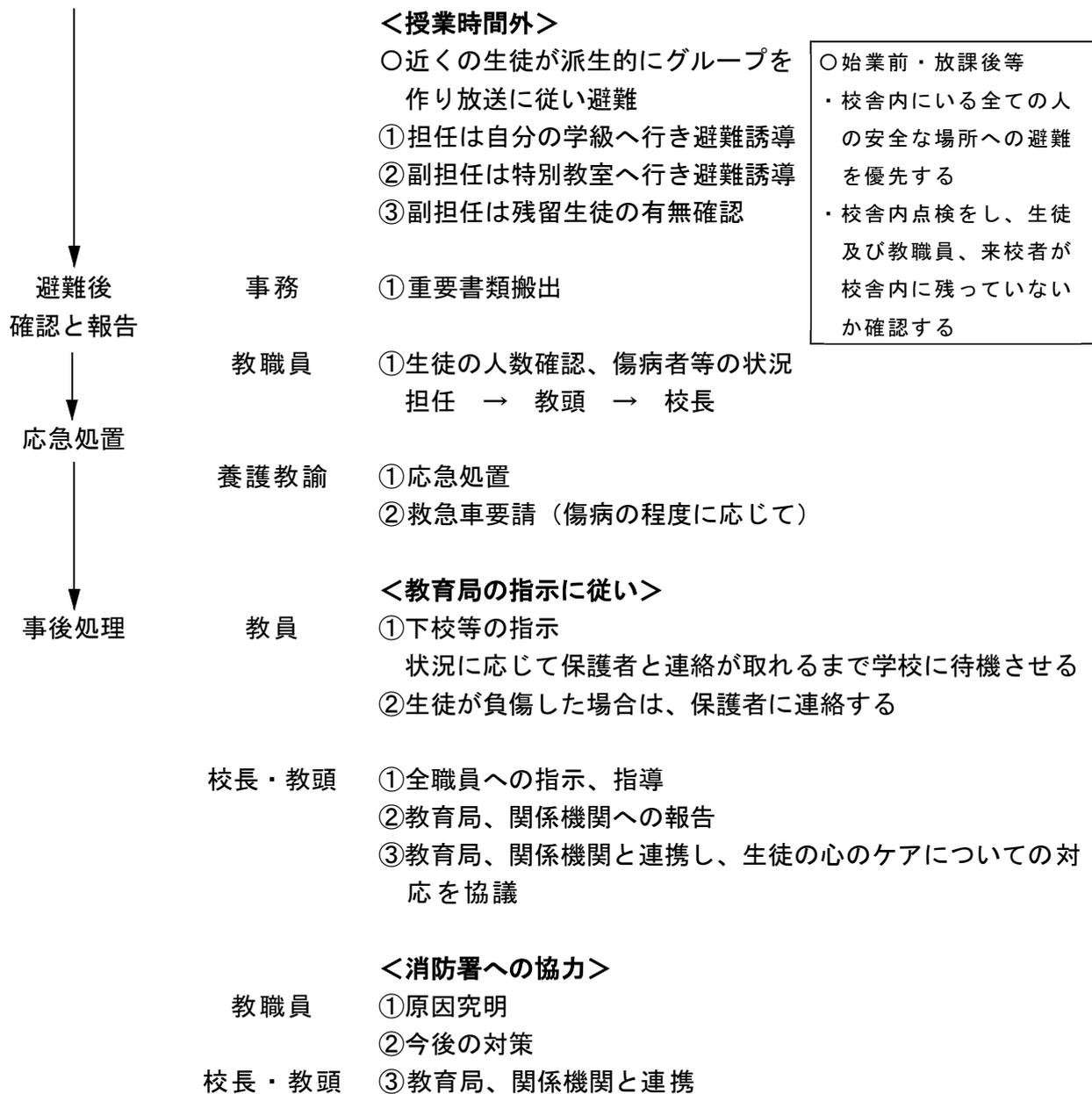
- a. 校内で火災が発生した場合の対応
- b. 通常の登校日に地震が発生した場合の対応

- c. 避難訓練実施要領
 - d. 消火栓、消火器の設置場所
- (2) 健康安全上の事故に関わる対処・指導
- a. 校内で生徒がけがをした場合の対応
 - b. 校内で暴力事件が発生した場合の対応
 - c. 食中毒への対応
 - d. 学校伝染病、インフルエンザ等が蔓延した場合の対応
- (3) 教育上のトラブルに関わる対処・指導の方法
- a. 教育上のトラブルにおける保護者への対応
- (4) 生徒指導に関わる対処・指導の方法
- a. いじめ問題への対応
 - b. 不登校や退学傾向のある生徒への対応
 - c. 問題行動に対する基本的対処の仕方
 - d. 自殺予告電話への基本的対応の仕方
 - e. 凶器持ちの外部侵入者への基本的対処の仕方

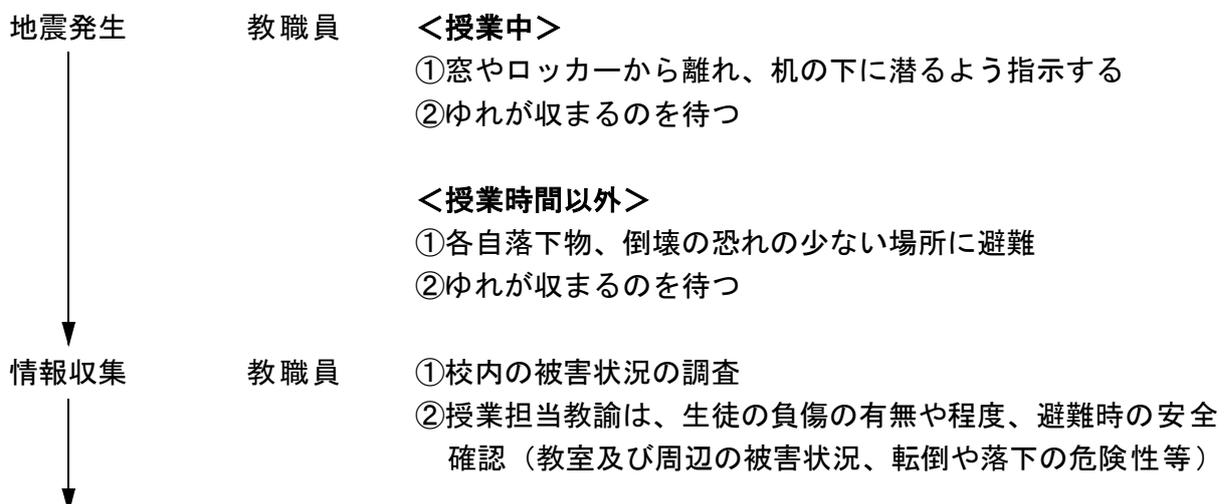
[7] 災害発生時の対応

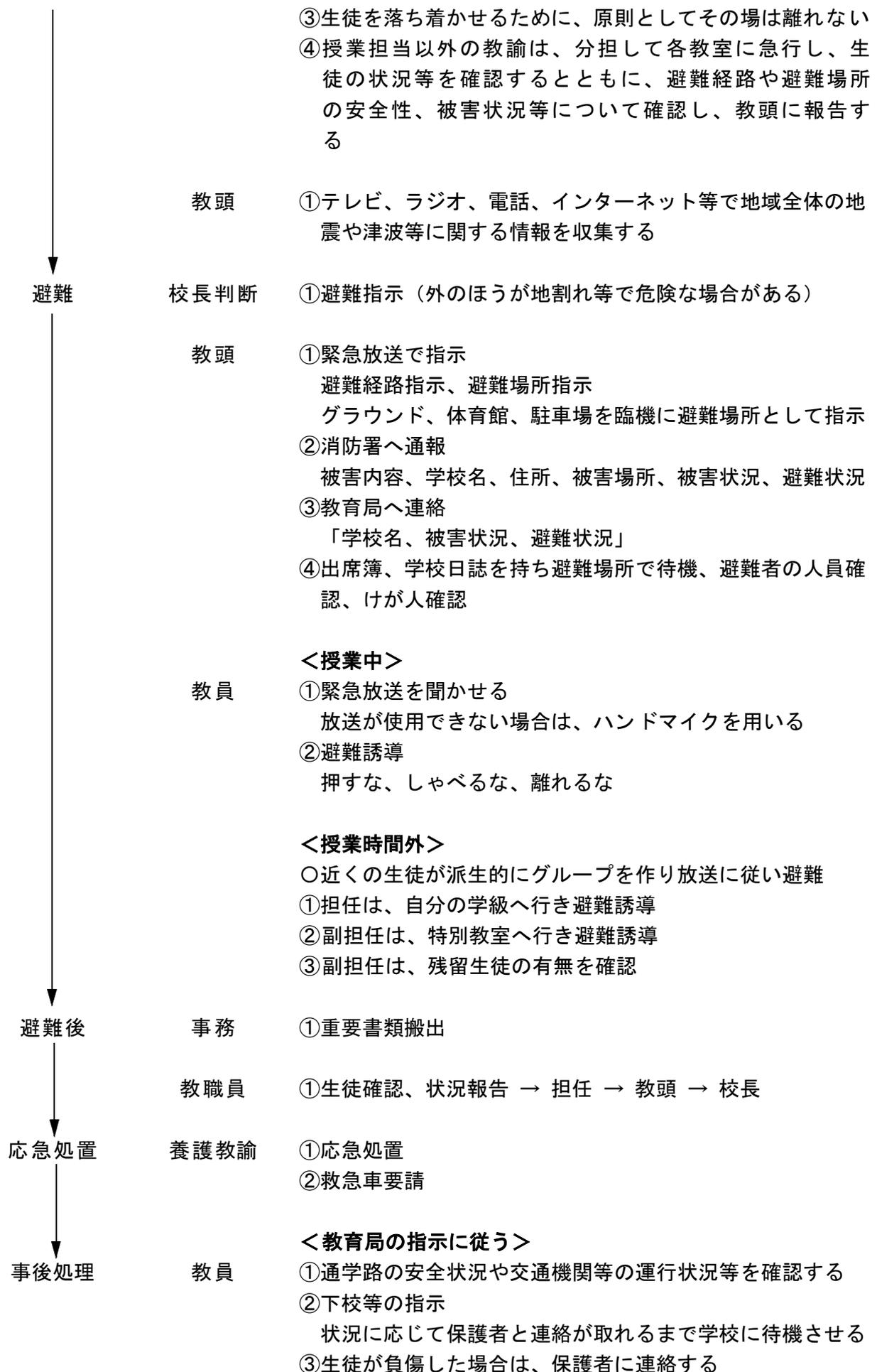
1. 校内で火災が発生した場合の対応





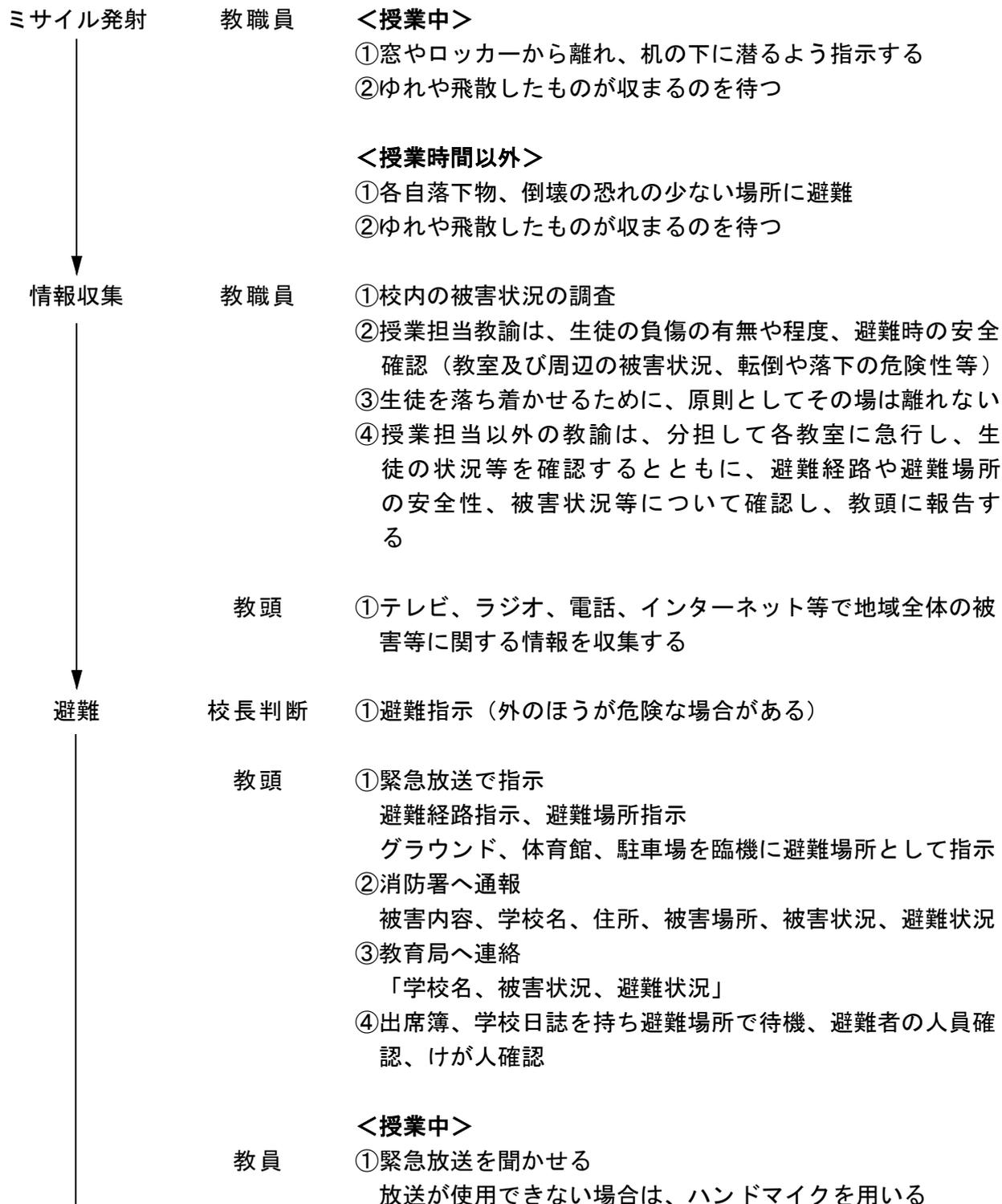
2. 地震が発生した場合の対応

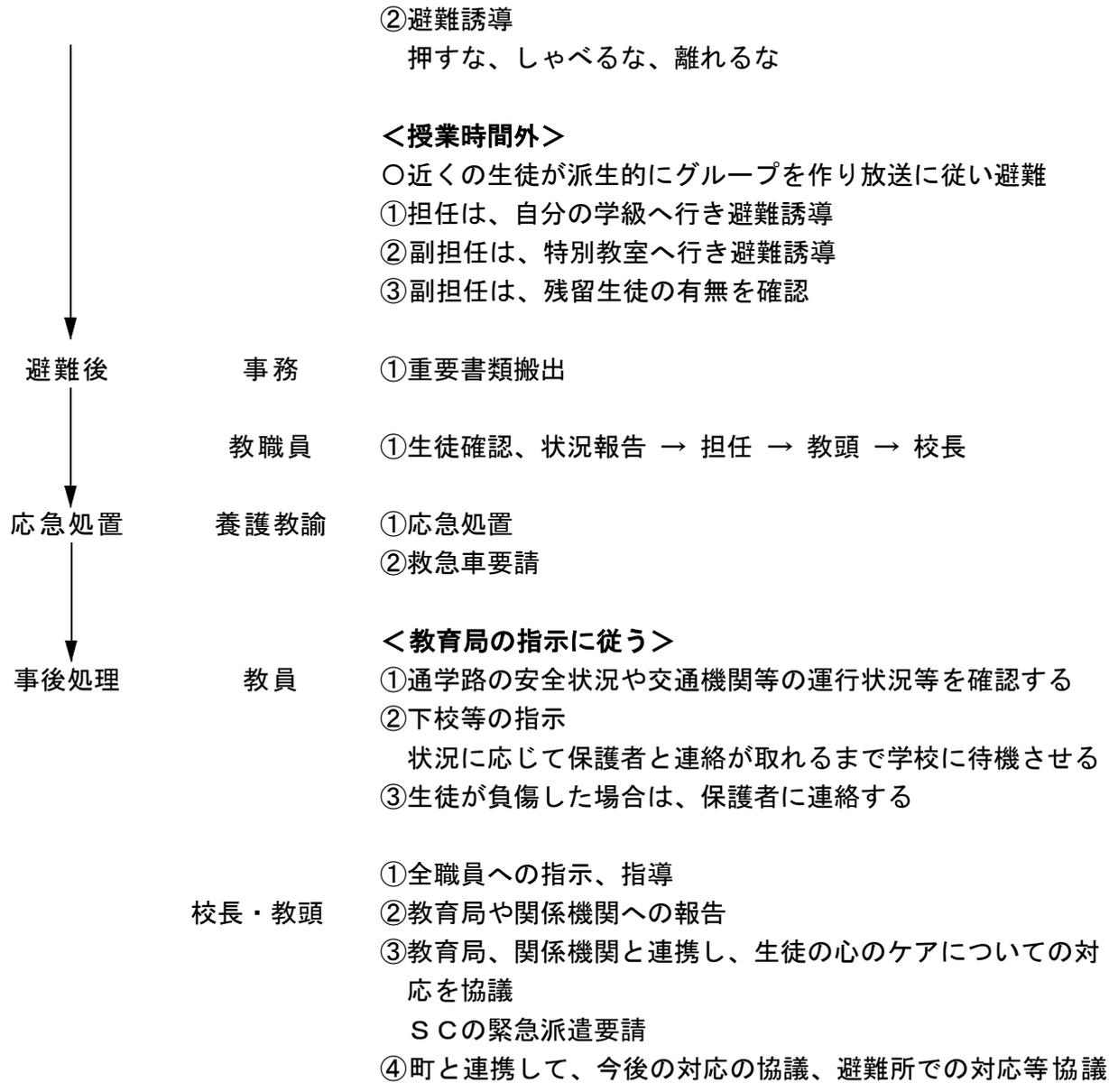




- 校長・教頭
- ①全職員への指示、指導
 - ②教育局や関係機関への報告
 - ③教育局、関係機関と連携し、生徒の心のケアについての対応を協議
SCの緊急派遣要請
 - ④町と連携して、今後の対応の協議、避難所での対応等協議

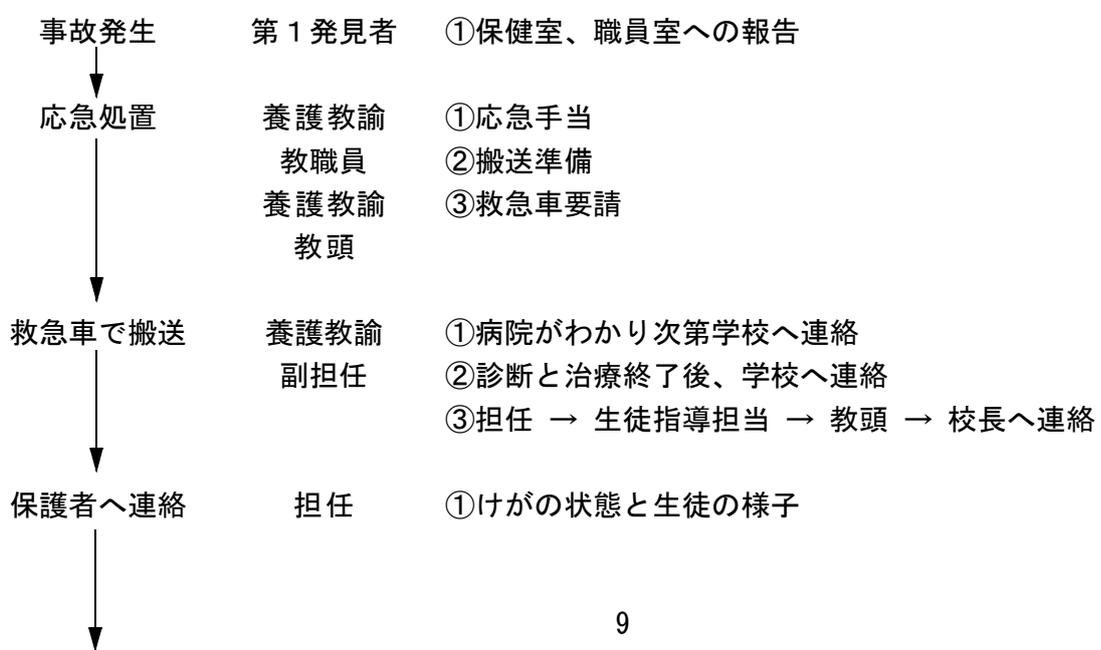
3. ミサイル発射の対応

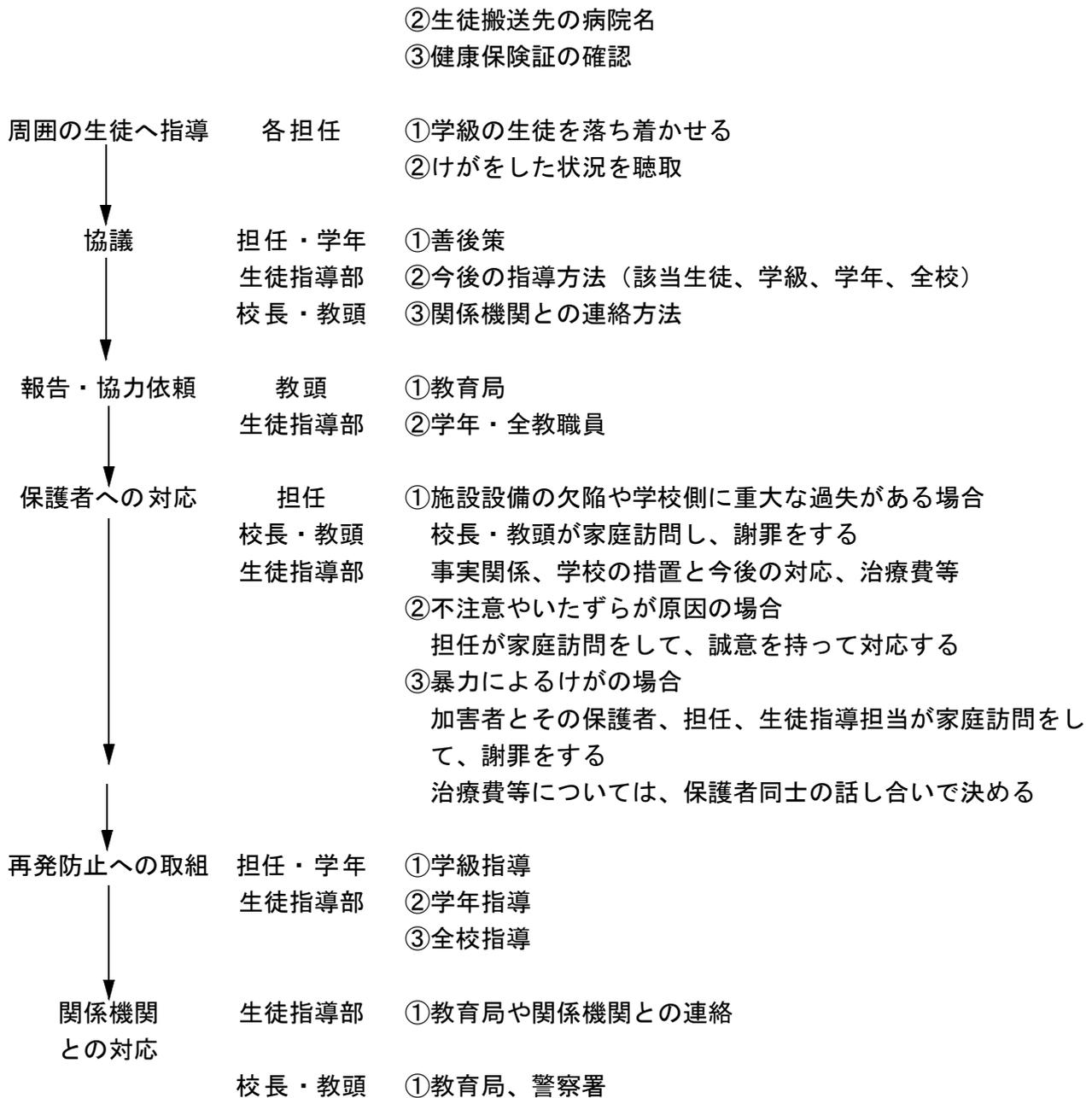




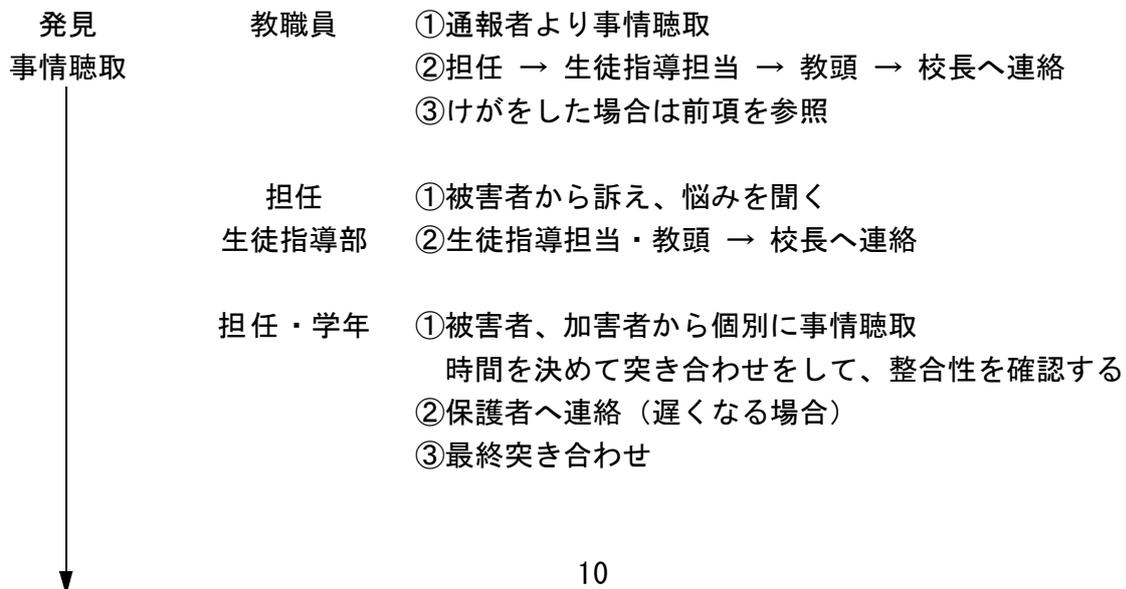
[8] 健康安全上の対応

1. 校内で生徒がけがをした場合の対応

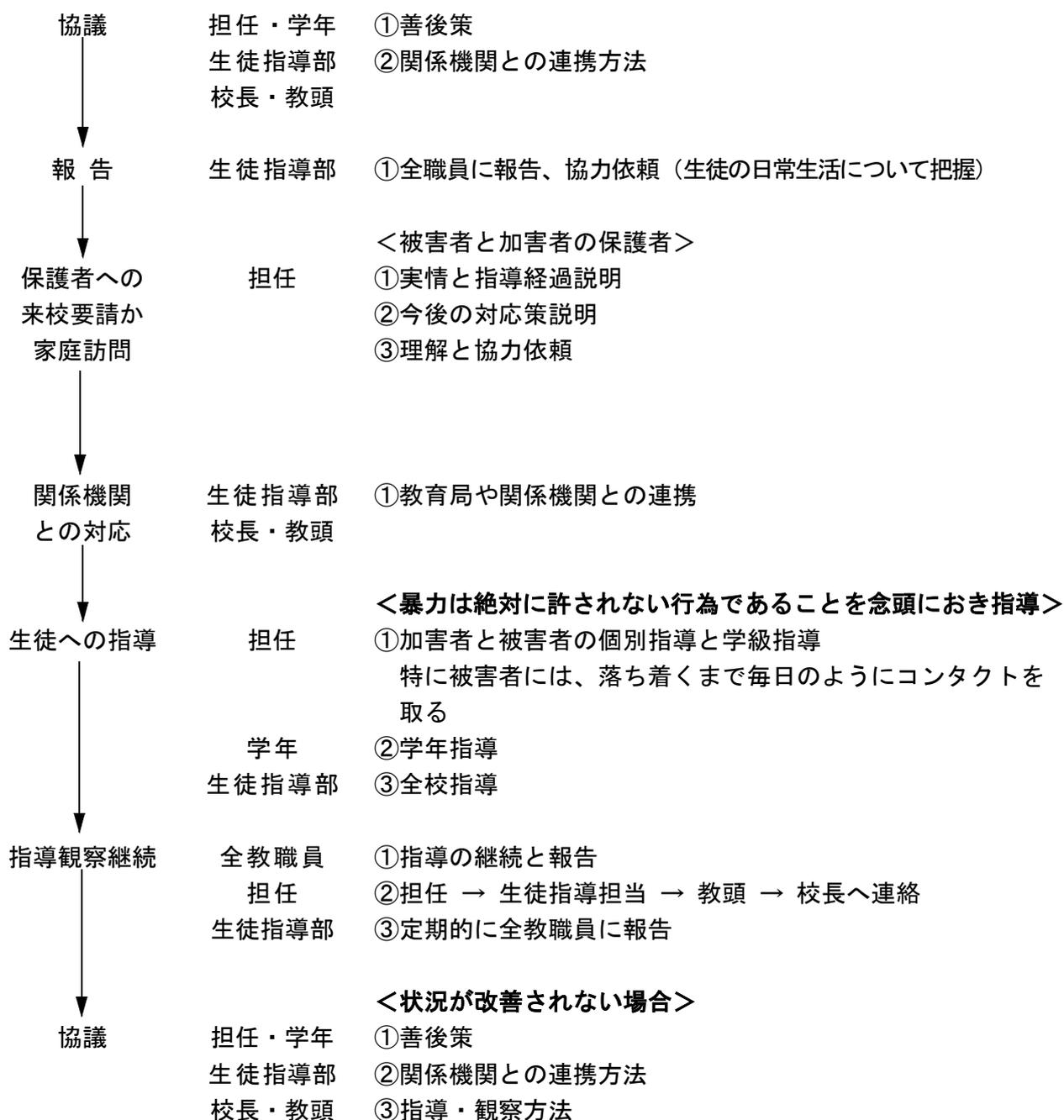




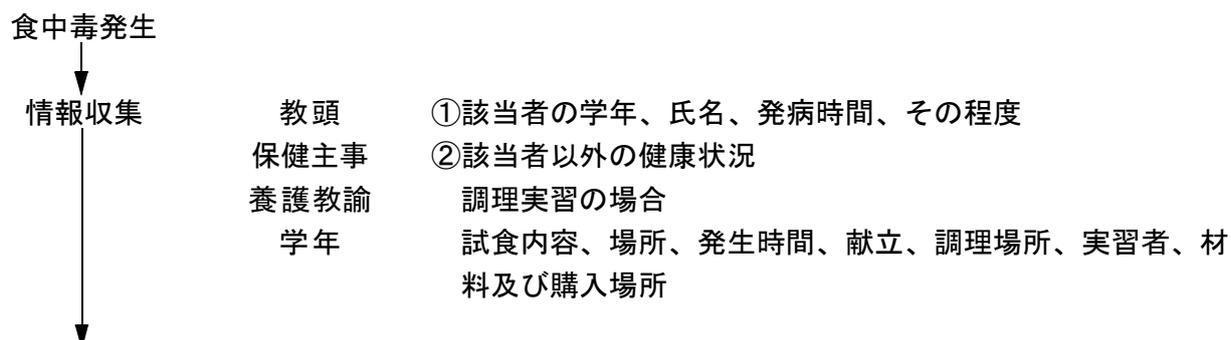
2. 校内で暴力事件が発生した場合の対応

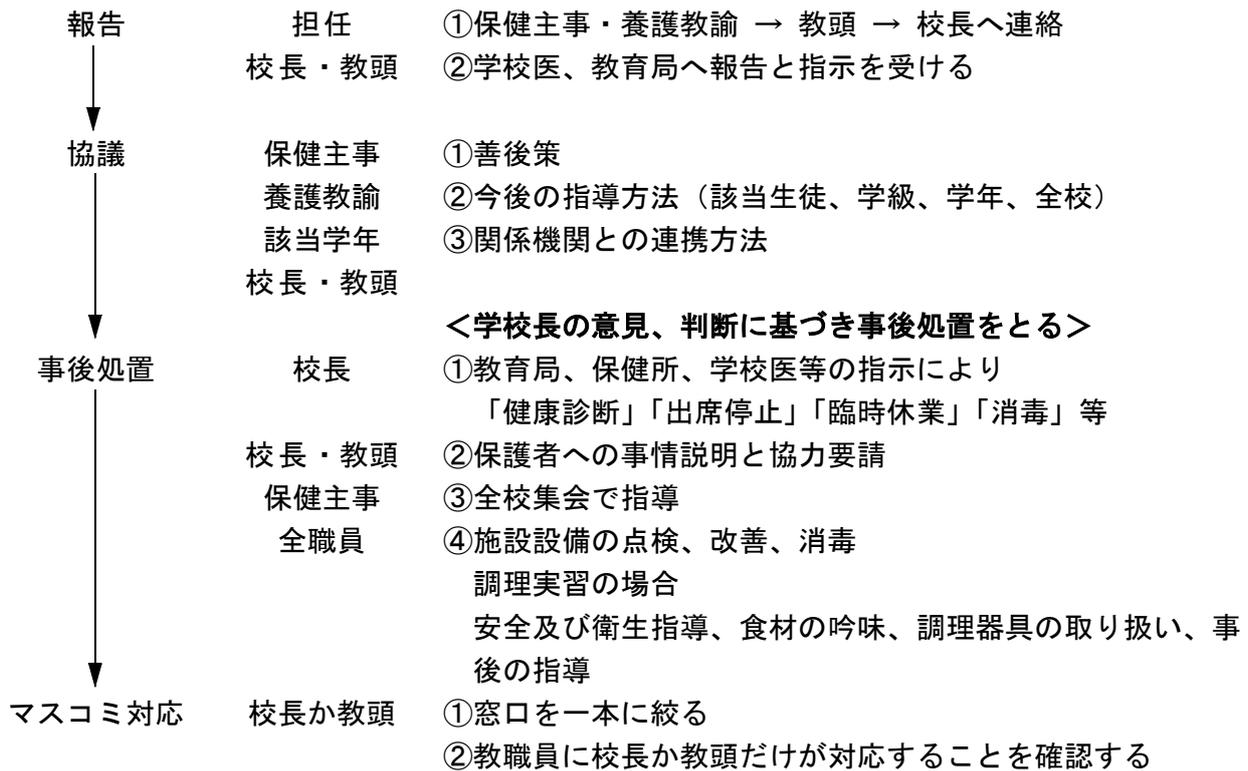


④各家庭へ本人とともに家庭訪問をし、本人と確認しながら保護者へ報告

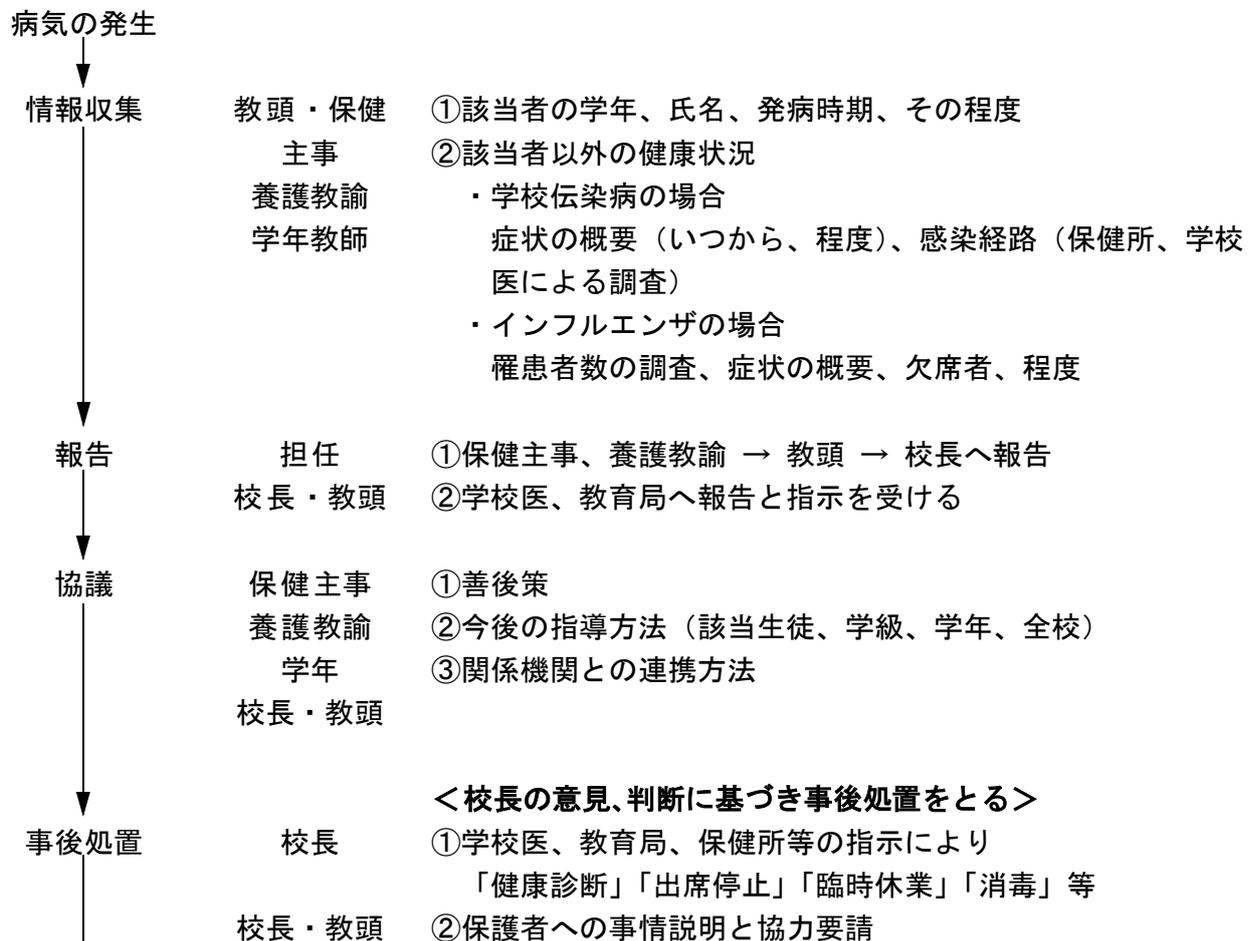


3. 食中毒への対応





4. 学校伝染病・インフルエンザ等感染症の対応

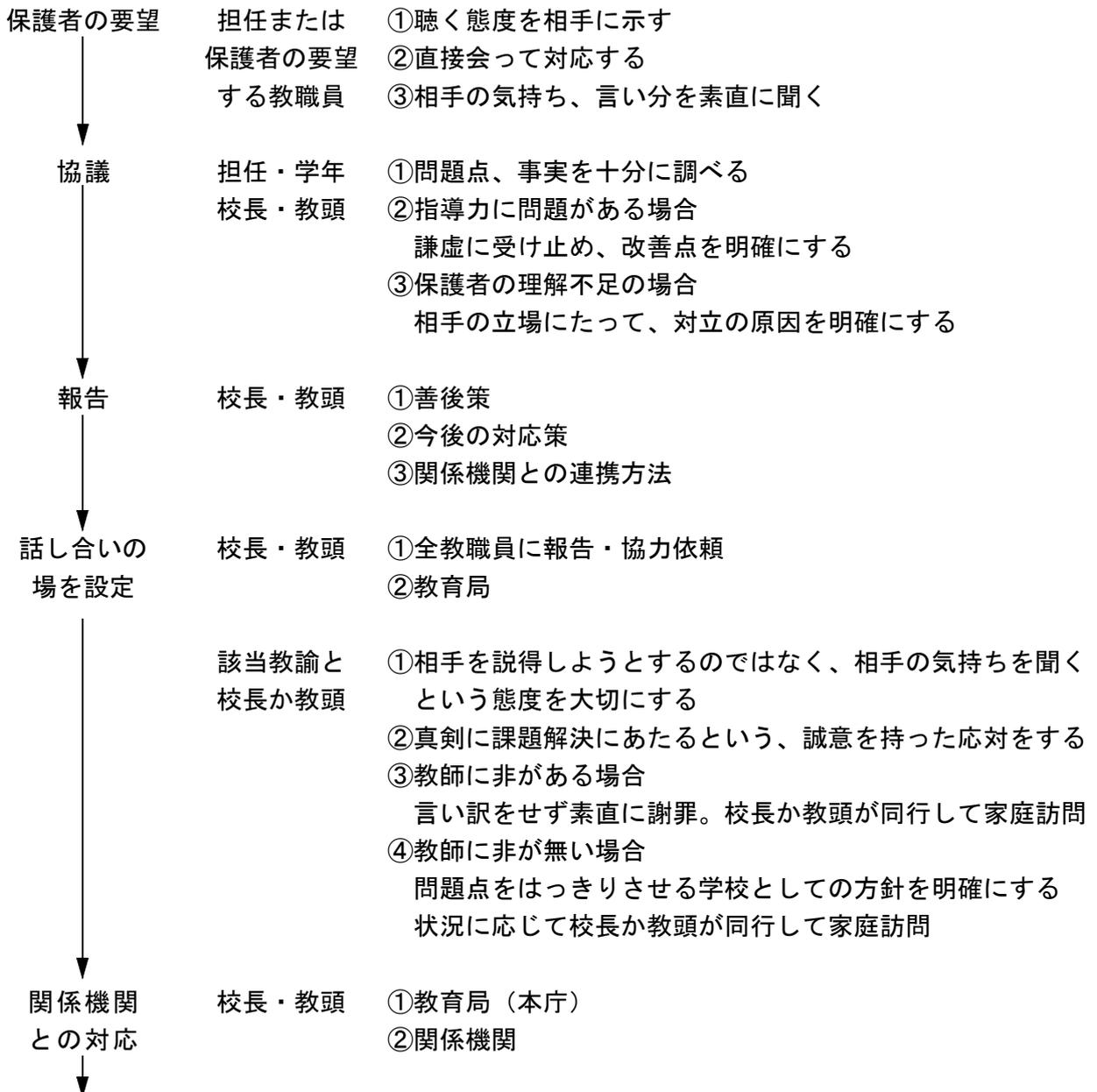


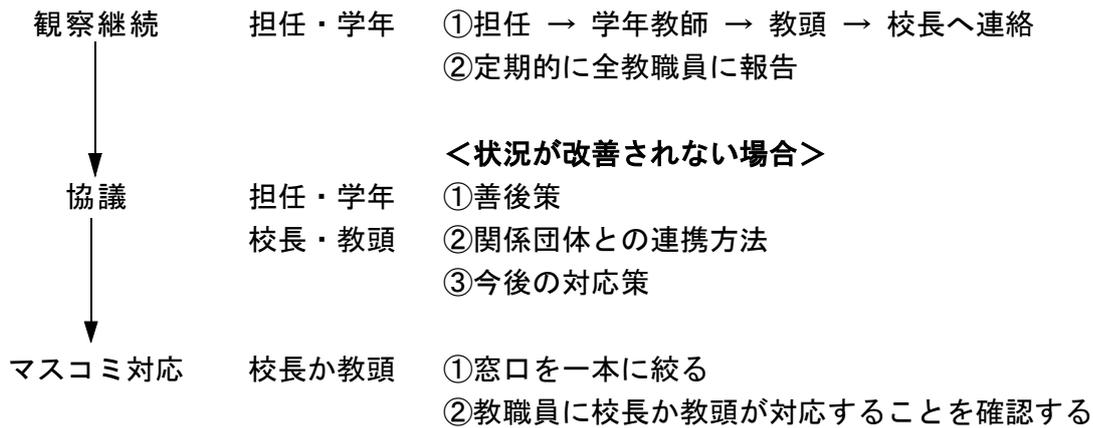
- | | |
|-------------|--|
| 保健主事
全職員 | <ul style="list-style-type: none"> ③全校集会で指導（または担任による学級指導） ④原因究明と原因の除去 ⑤学校施設設備の点検、改善、消毒 <ul style="list-style-type: none"> ・学校伝染病の場合
感染経路の特定、2次感染の防止、施設設備の消毒、衛生指導 ・インフルエンザの場合
うがい、手洗いの励行、睡眠、食事、休養、規則正しい生活 |
|-------------|--|

- | | | |
|--------|-------|---|
| マスコミ対応 | 校長か教頭 | <ul style="list-style-type: none"> ①窓口を一本に絞る ②教職員に校長か教頭が対応することを確認する |
|--------|-------|---|

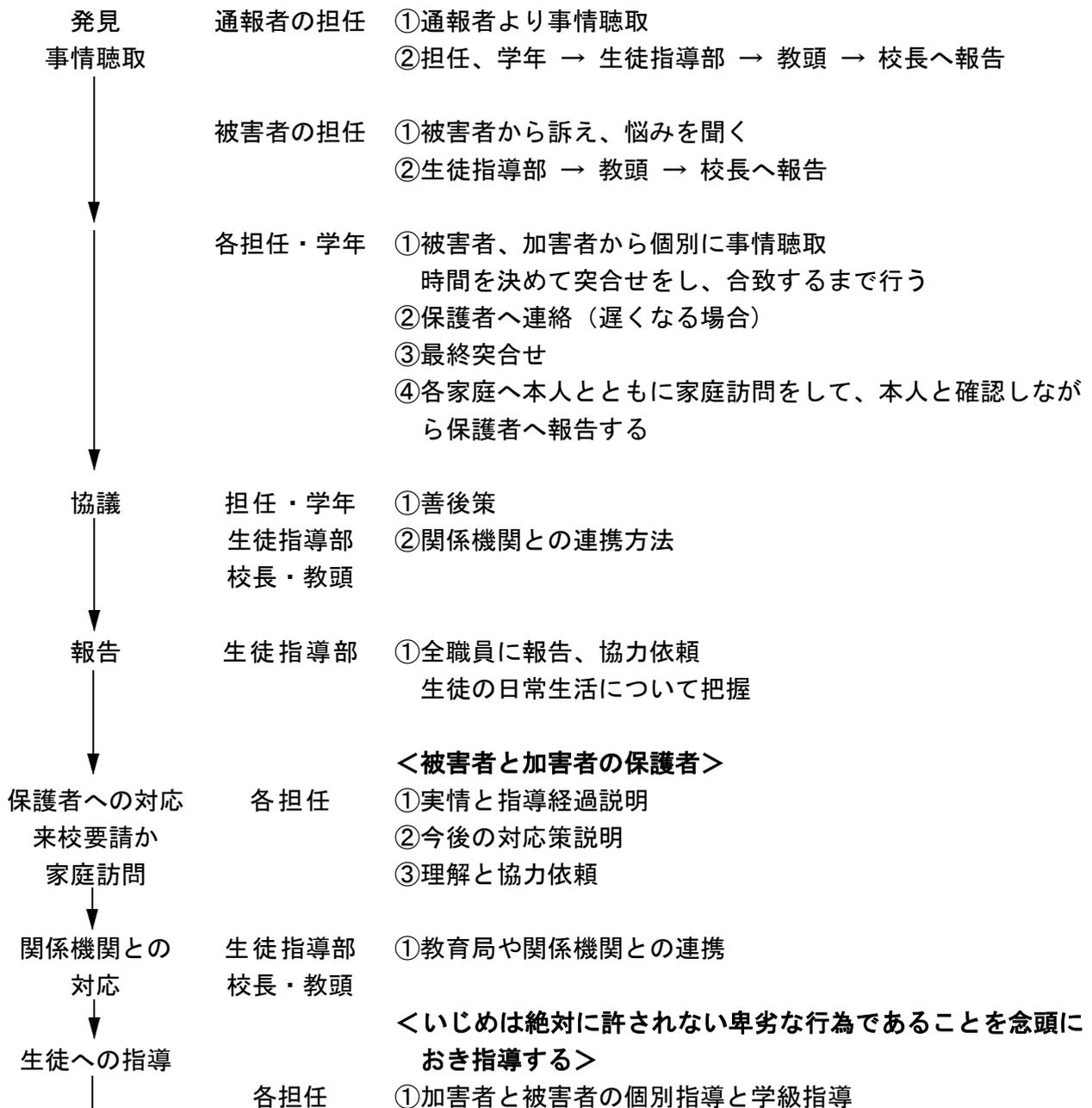
[9] 教育上のトラブルの対応

1. 生徒指導における対応

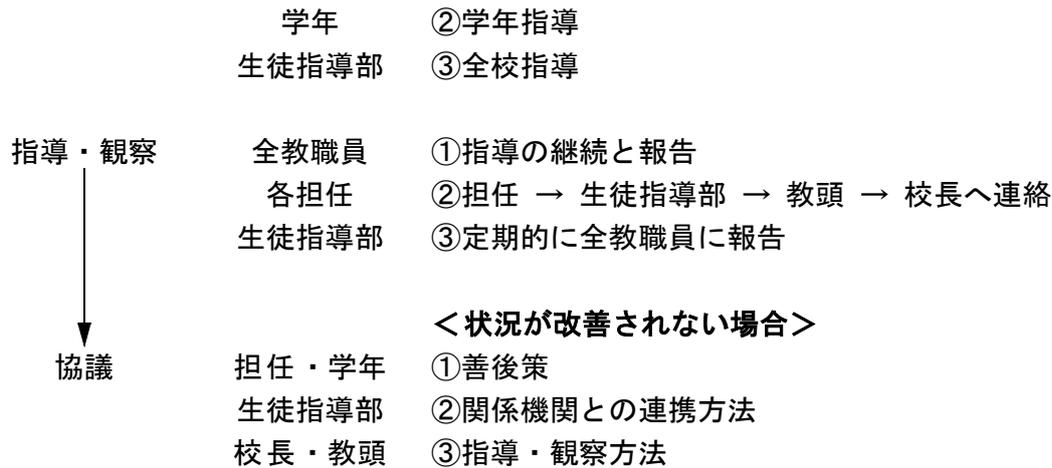




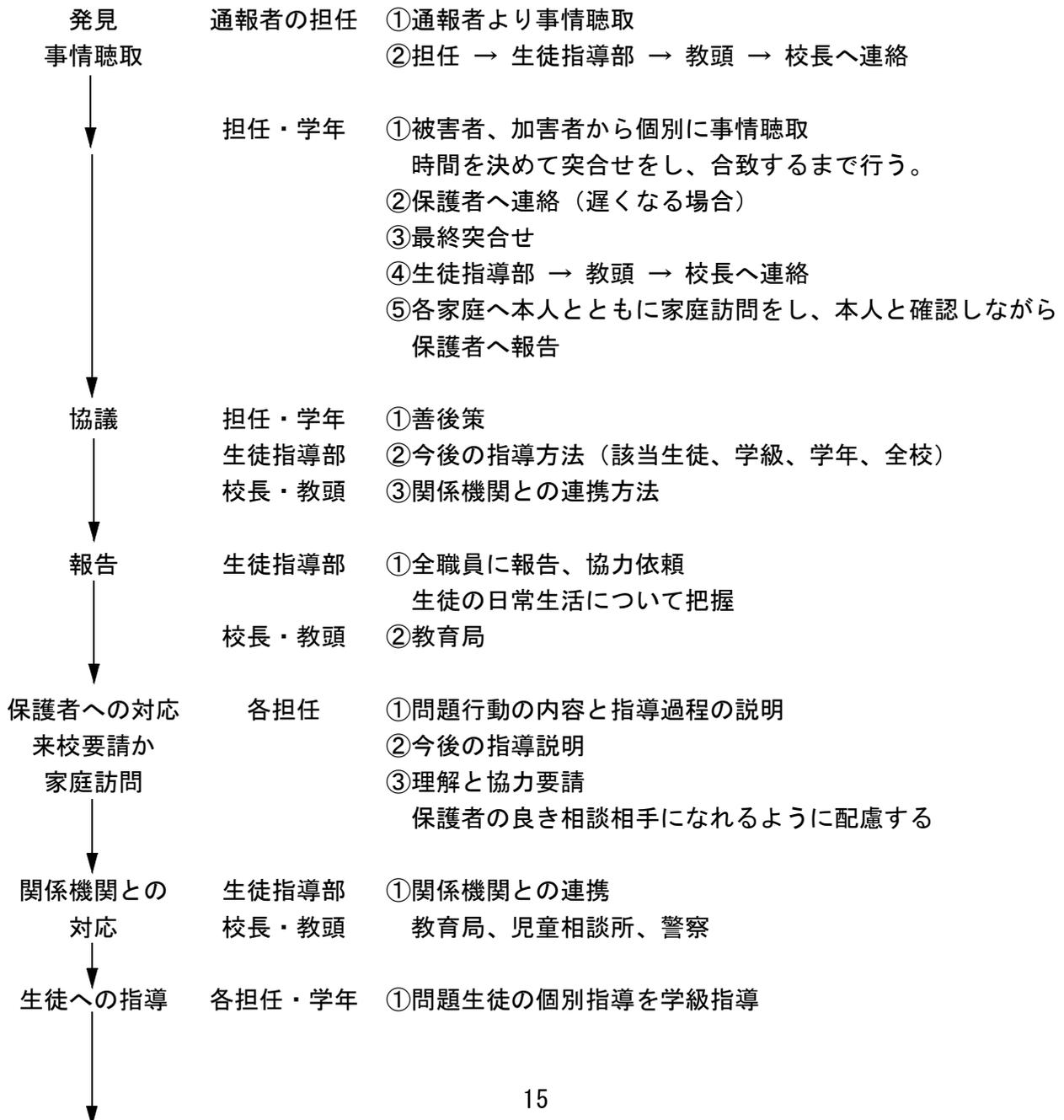
2. いじめ問題の対応

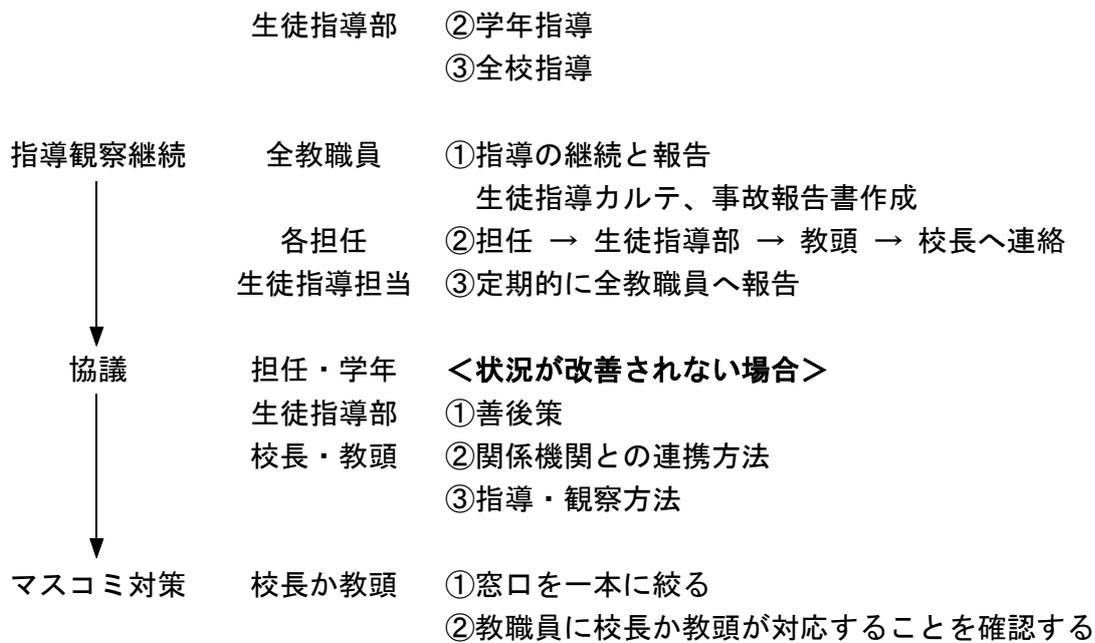


特に被害者には、落ち着くまで毎日のようにコンタクトを取る

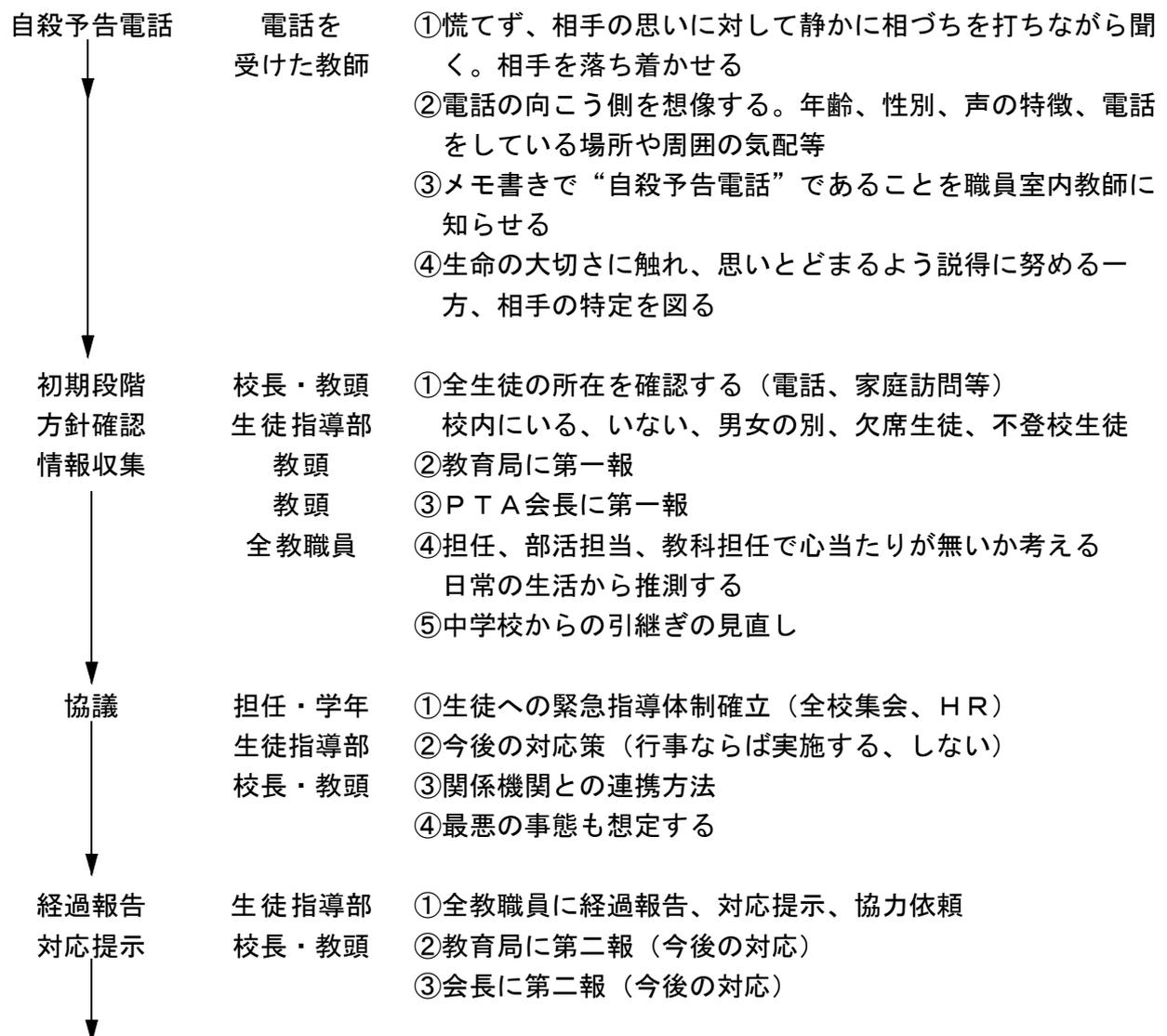


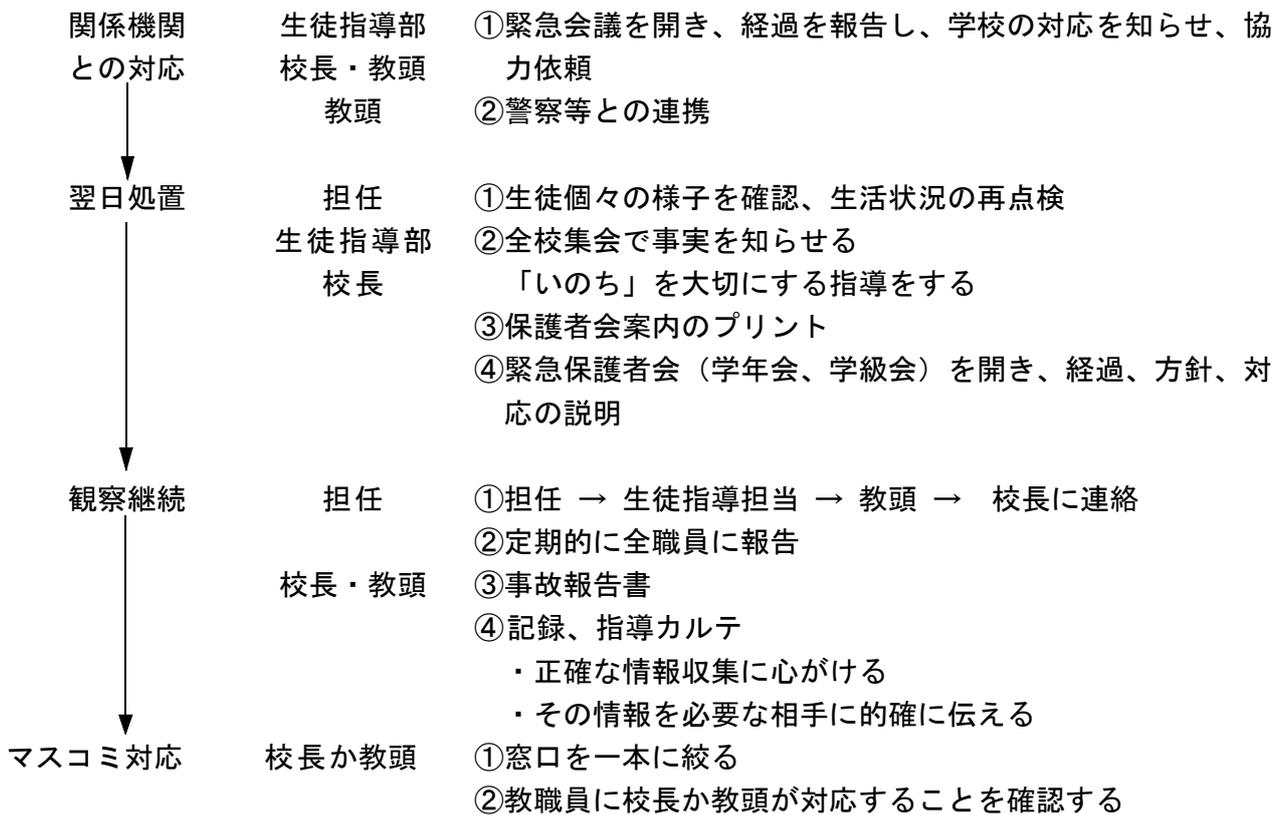
3. 問題行動に対する基本的な対応



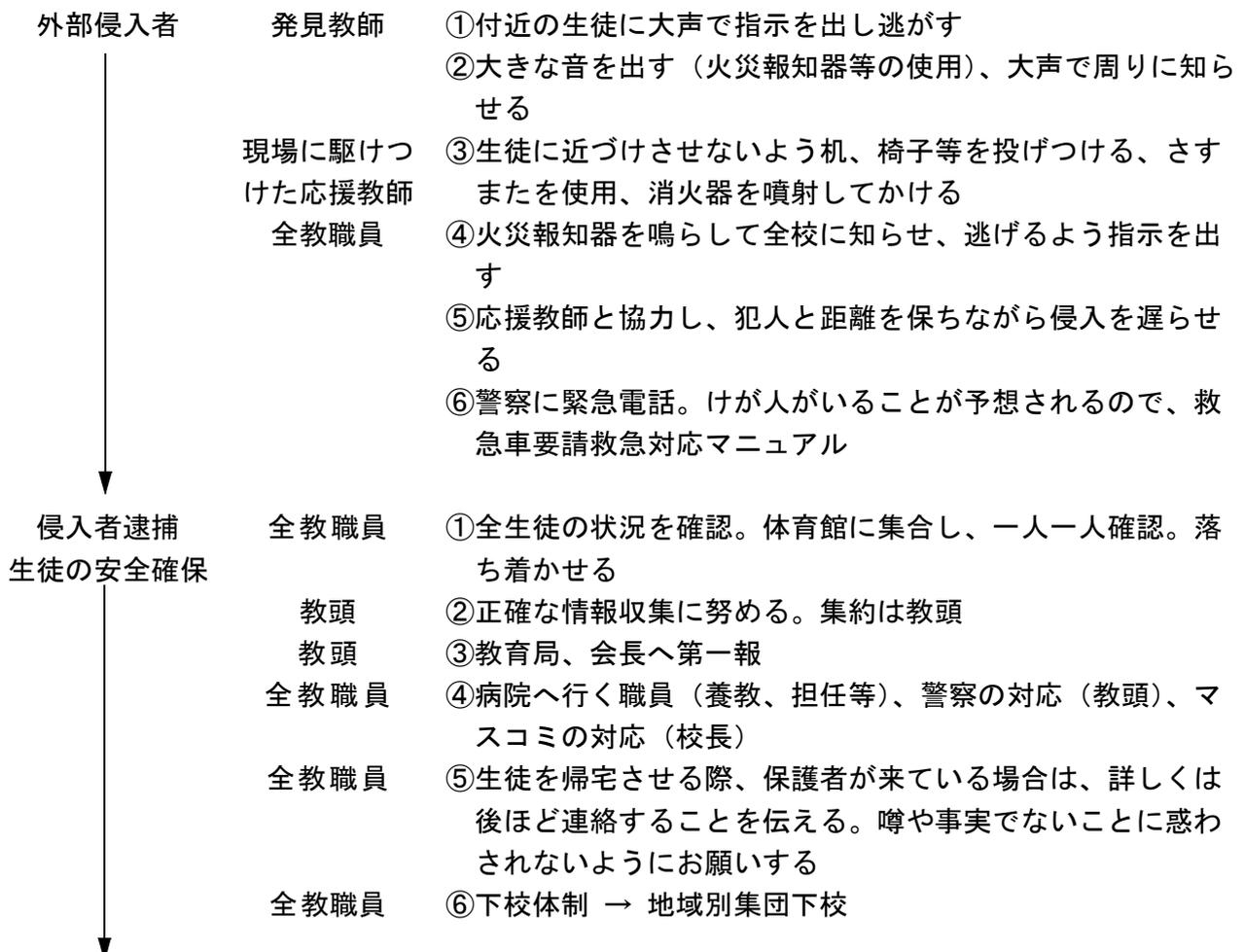


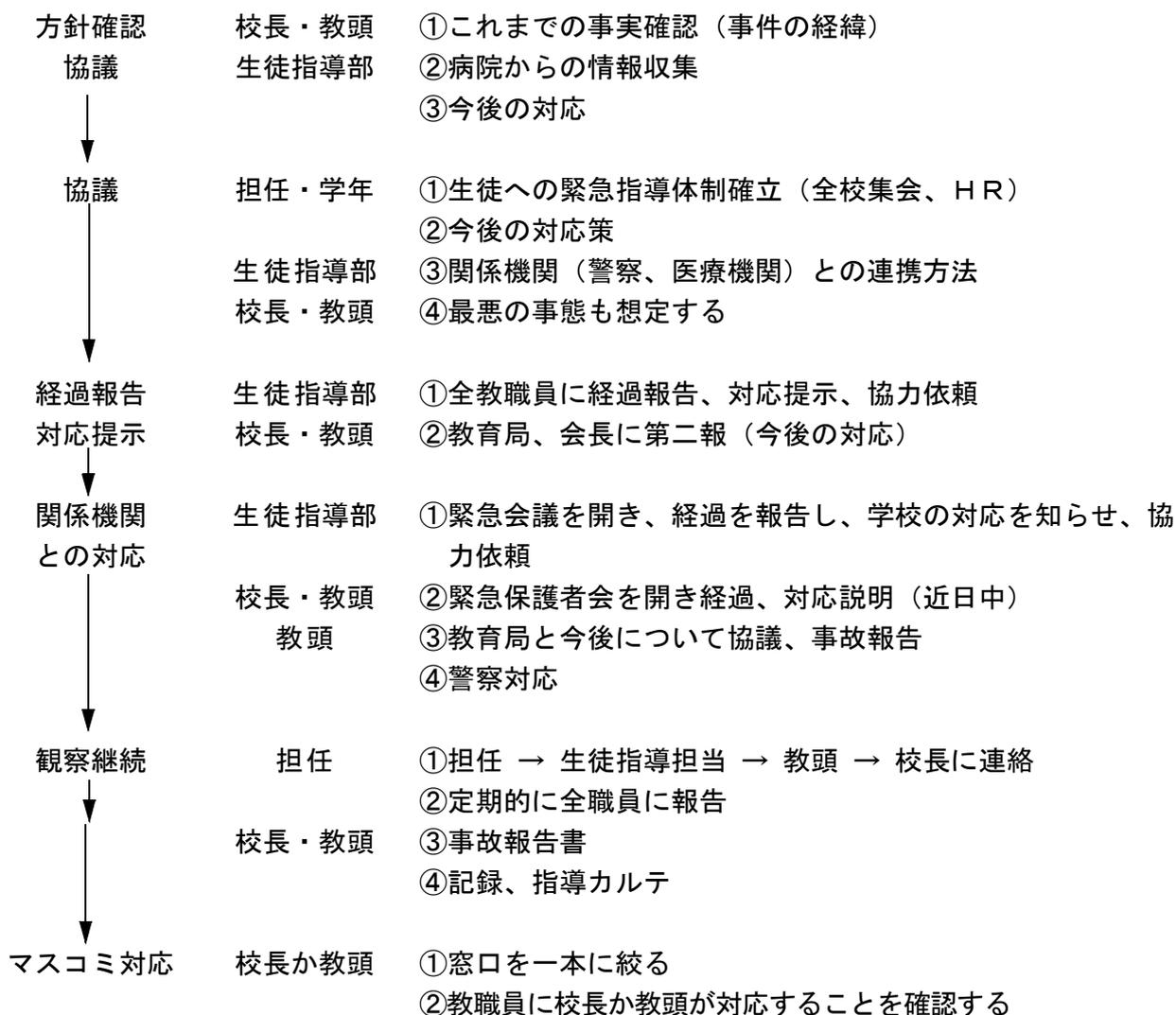
4. いじめ・行事等自殺予告電話の対応



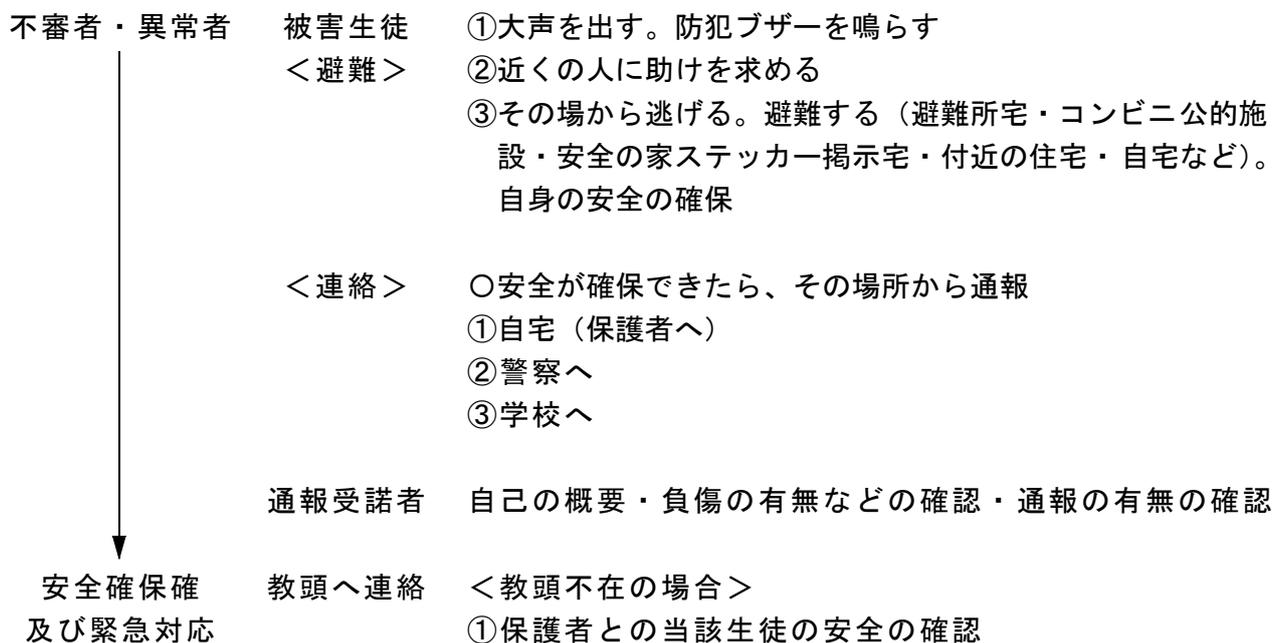


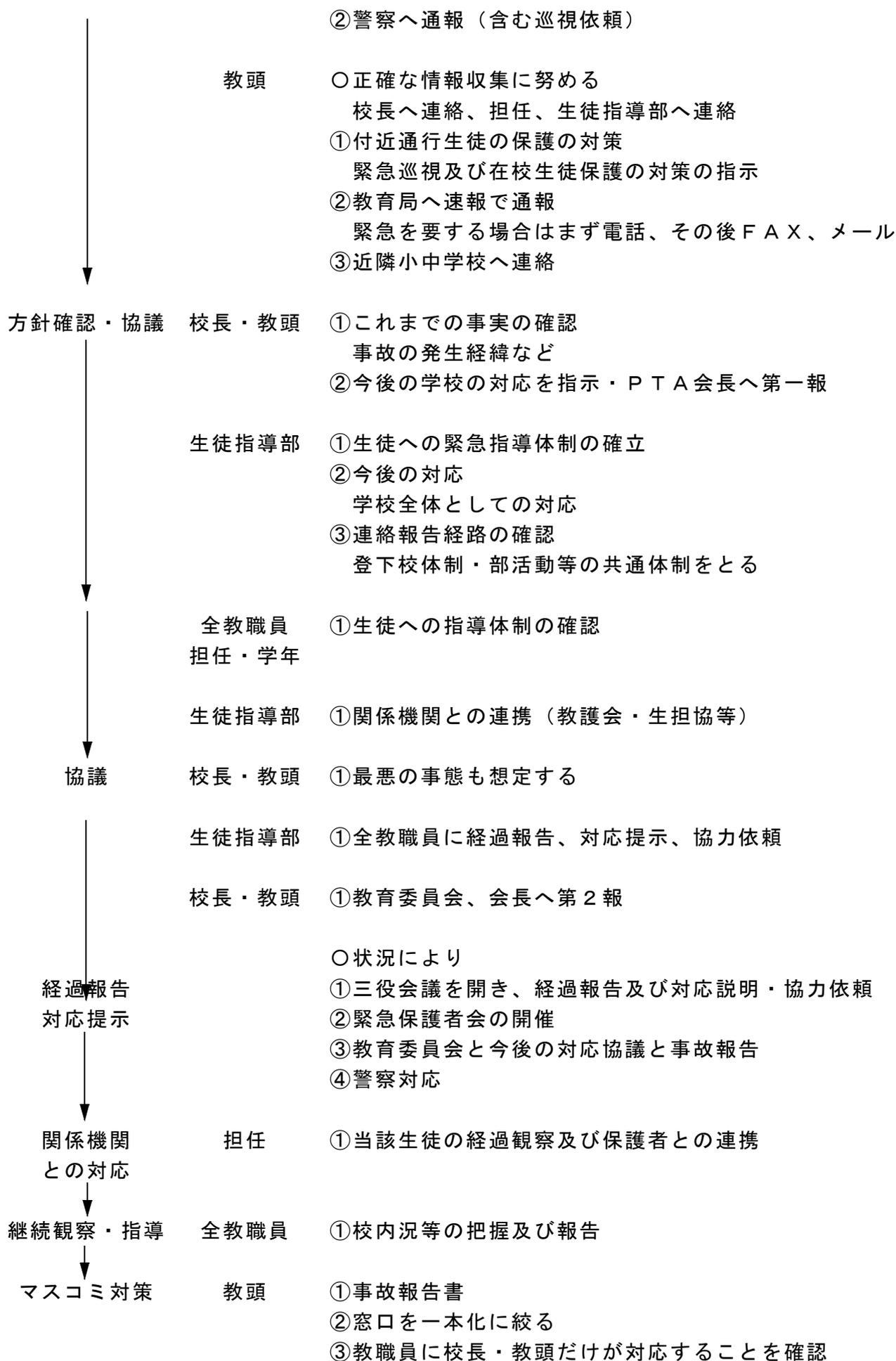
5. 凶器持ち外部侵入者（不審者・異常者）への対応





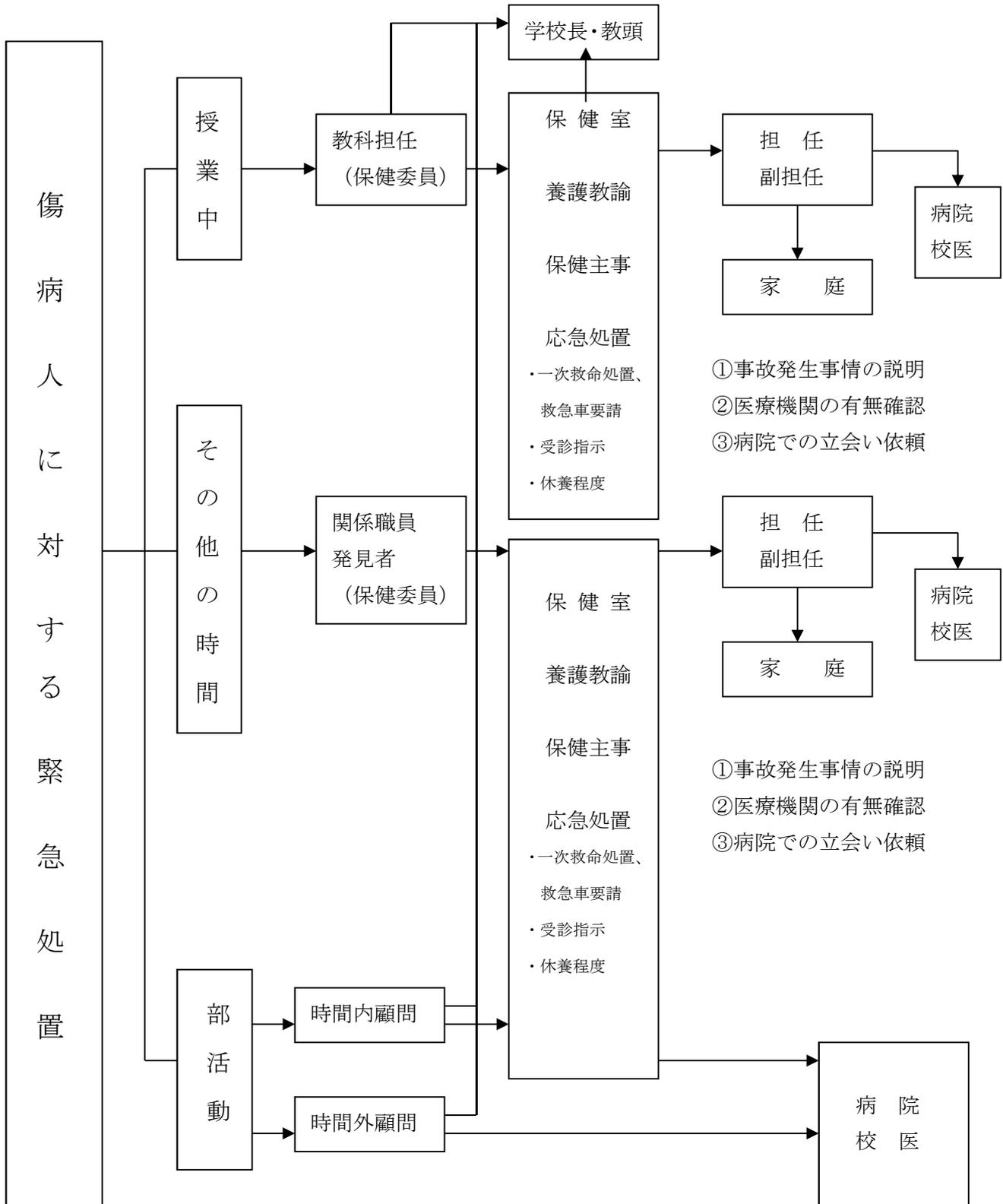
6. 校外における不審者・異常者への対応





緊急時の救急体制

事故・災害などによる緊急事態が発生した場合に備え、救急体制を次のように定める。
 事故の内容及び程度によって臨機応変な対応が考えられる。

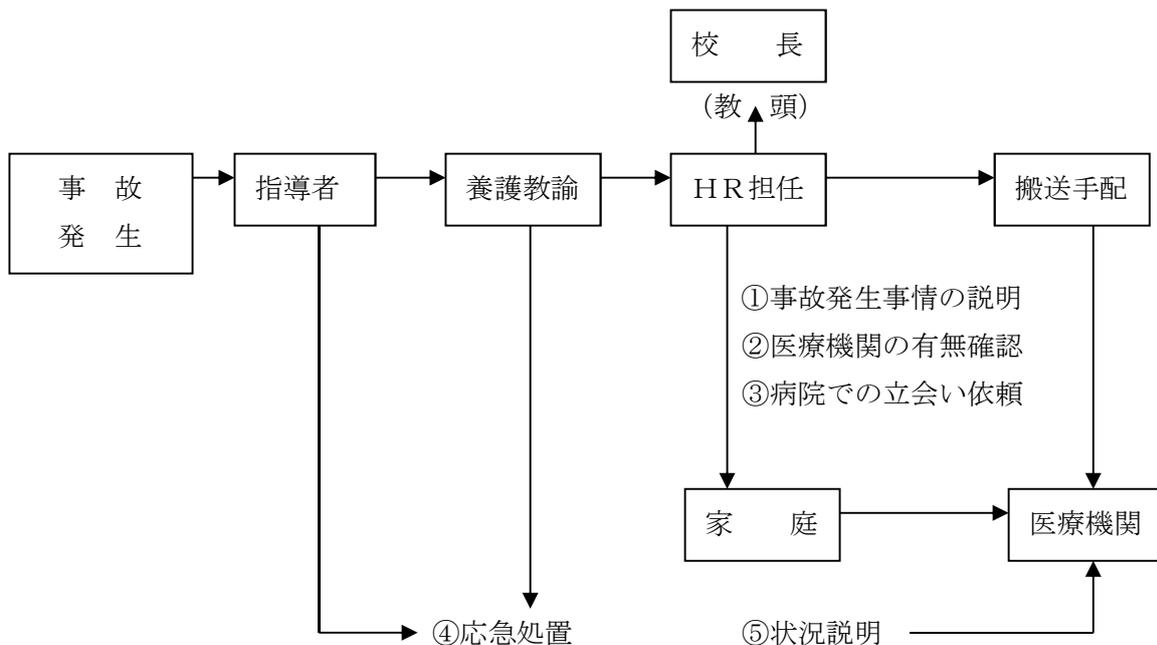


緊急時の救急体制

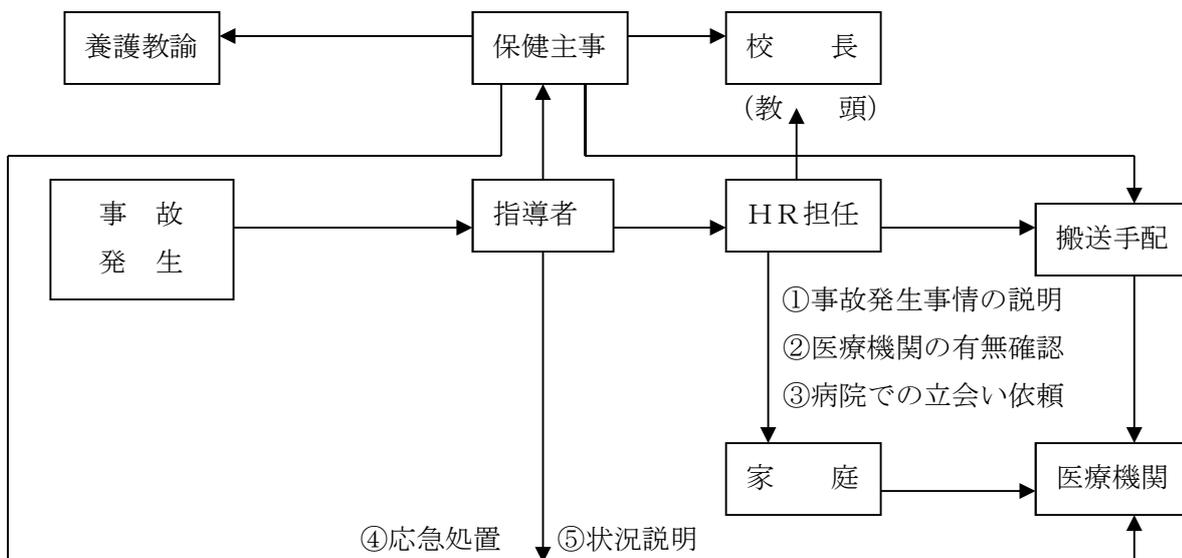
事故・災害などによる緊急事態が発生した場合に備え、救急体制を次のように定める。
 事故の内容及び程度によって臨機応変な対応が考えられる。

救急体制組織図

第1 緊急体制 (養護教諭在校時)

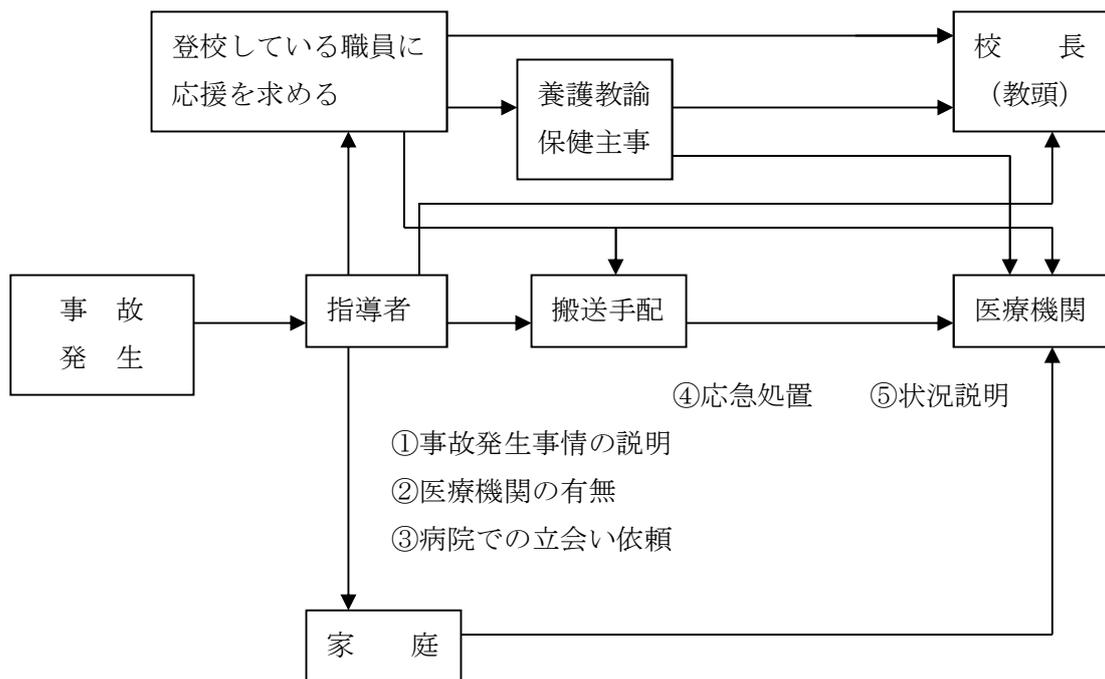


第2 緊急体制 (養護教諭不在校時)

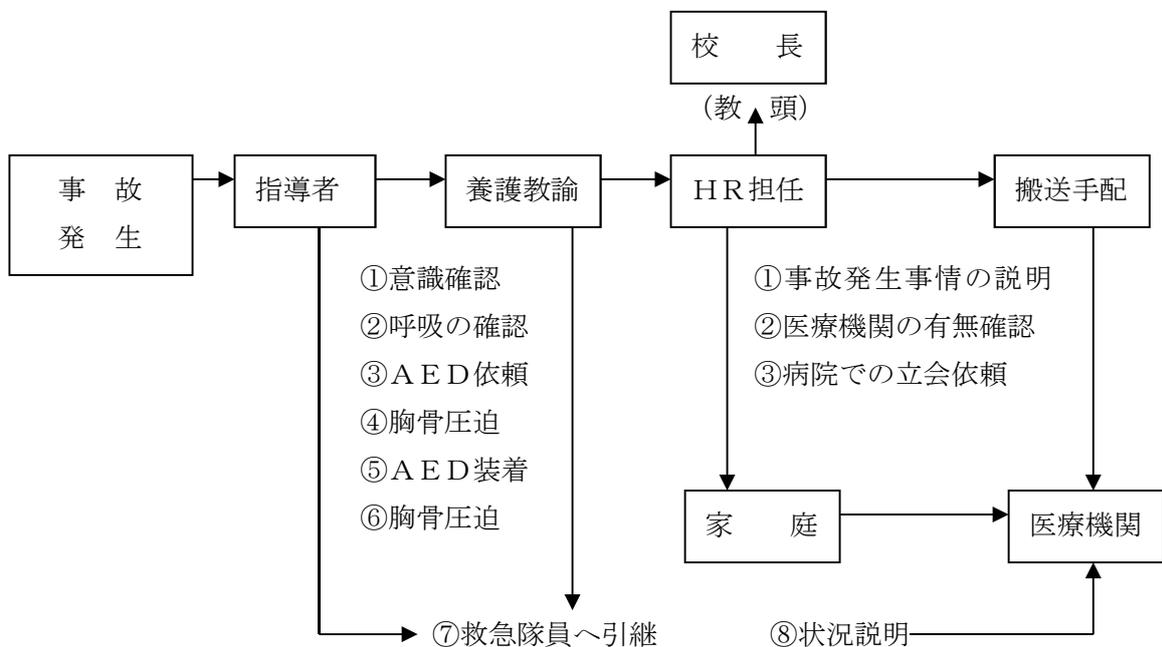


(搬送の同乗者はHR担任・副担任・保健主事とする)

第3 緊急体制 (休日・部活動時)



第4 緊急体制 (AED使用時)



- (1) 生徒の事故による負傷又は疾病が発生した場合は直ちに指導者に連絡する
- (2) 指導者は養護教諭に報告と同時に保健室に運ぶ。ただし現場で安静にする場合もある
- (3) 学校管理下での傷病の応急措置は養護教諭が行う。ただし養護教諭不在の場合は保健主事で処理する
- (4) 養護教諭はHR担任にけがの程度を連絡するとともに、その場の職員などに応援を求める
- (5) 担任は直ちに家庭連絡をして確認をとり、養護教諭に連絡する
- (6) 養護教諭は事故発生 of 報告を受けて医療機関に連絡をとる
- (7) HR担任や保健主事は搬送の手配をする
(救急車の手配については養護教諭が判断して、学校長の了解を得て行う)
- (8) 患者の搬送については、養護教諭・指導者・HR担任が付き添うことを原則として医師に状況説明や応急処置などについて説明する
- (9) 保護者に立会いをお願いし、病院において保護者に引き渡す
- (10) 養護教諭は帰校後、HR担任と教頭に診断結果と今後の見通しを報告し日本スポーツ振興センターの手続きをする

北海道追分高等学校災害時（地震・火災・台風・噴火等）の指揮系列及び内容

